



# Jichi 地域連携ニュース

- 子ども医療センター長の紹介
- 地域医療連携研究会開催のお知らせ
- 診療科からのメッセージ
  - 血液科
  - 小児外科
- 院内学級「おおるり分教室」
- NST研修会のお知らせ
- リハビリテーションセンターの活動紹介

☆ **皮膚科**はH24年11月1日より  
**完全紹介状制**に変更いたします☆

初診及び予約のない再診患者様で1年以上受診のない方をご紹介いただく場合は、紹介状(診療情報提供書)を持たせるようお願いいたします。(ただし、緊急の場合は医師の判断で対応いたします。)

## とちぎ子ども医療センター長の紹介

あいはら としのり  
相原 敏則

病院長補佐  
とちぎ子ども医療センター長  
小児画像診断部部長



4月1日、附属病院病院長補佐に就任した相原敏則です。本務は小児画像診断を専門とする放射線科医で、小児画像診断部の部長を務めるとともに、子ども医療センター長を兼務しています。病院長補佐に任命されたのは自治医科大学が小児医療を重視している現れと、身が引き締まる思いでこの半年余りを過ごしました。

7月31日発行の第3号にて、鈴木、杉山両副病院長ともに、附属病院は様々な問題を抱えていると述べています。子ども医療センターも例外ではありません。外科手術件数の伸びは想定を超え、“手術の適正化委員会”が病院長命で立ち上がり手術件数が制限されるに至るきっかけのひとつになりました。腕のよい外科医が獲得できたと喜んでいた蜜月はとうに終わりました。大学附属の高度医療機関でありながら、軽症患者の受診数減少が底を打った状態が続いています。「小児」であることが唯一の紹介理由である軽症患者の紹介もあとを絶ちません。背景には少子化が叫ばれながらそれと表裏一体となった

貴重児化があると思います。大学病院として高度医療を担う責務を矛(ほこ)とすれば本学が旗印に掲げる地域医療の充実は盾(たて)。これを両立する困難は、子ども医療センターとて例外ではありません。

しかし、この“矛盾”は開学以来40年経験し続けてきたことです。最近になって地域医療を口にし始めた施設とは、経験の厚みが違います。しかも幸いなことに、センターのスタッフは職種を問わず熱意に溢れ、一生懸命働くことを厭いません。栃木県は開設準備の際、“小さく産んで大きく育てる”と約束してくれました。あとは、地域医療機関のご協力とご支援。これが加われば、困難はいかほどでもない。そう信ずることができます。皆様におかれましては、一層のご協力とご支援を賜りたく存じます。どうぞよろしくお申し上げます。



春 センター入口

### ❁ 地域医療連携研究会のご案内 参加無料(申込み要)

※12月初旬に各医療機関あて案内状と申込書を送付いたしますので、FAXでお申し込みください。

～今年度も、診療圏域の医療連携を推進する研究会を開催いたしますので、是非ご参加ください～

テーマ **「高血圧と心血管疾患」** “栃木県の特徴と効果的な治療戦略を考える”

日時 **平成25年2月2日(土) 18時～19時50分(終了後懇親会)**

会場 **ホテル東日本 3F大和西**

講演 司会 **心臓血管外科 三澤 吉雄 脳神経外科 小黒 恵司**

- ・栃木県の循環器疾患の特徴と包括的リスク管理に向けて (循環器内科 菊尾七臣)
- ・脳卒中の急性期治療と再発予防 (神経内科 滑川道人)
- ・心筋梗塞の急性期包括的治療 (循環器内科 池本智一)

ディスカッション～心血管疾患地域医療連携のコンセンサスに向けて～

司会 **神経内科 中野 今治 循環器内科 新保 昌久**

問合せ先 **地域医療連携部病診連携室 ☎0285-58-7463・7461**

## 《診療部門からのメッセージ》



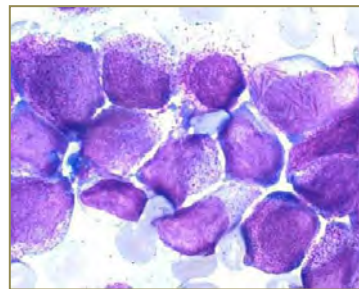
### 血液科

内科学講座血液学部門 教授 小澤 敬也

自治医科大学は血液関連の部署が多いという特徴があります。血液科や無菌治療部の診療関係だけでなく、分子病態治療研究センター(前身は血液医学研究部門)には血液内科出身のものが責任者となっている部門が5つあります。自治医大は血液疾患に関して、基礎研究からトランスレーショナル・リサーチ、臨床まで幅広くカバーしている大変ユニークな医療機関とすることができます。

さて、病棟では悪性リンパ腫などの造血器腫瘍患者が大半を占めていますが、分子標的治療薬が次々と登場し、新しい治療方法に目まぐるしく変わっていくという大変活気のある時代になっています。以前は地味な疾患であった多発性骨髄腫なども新規治療薬によって生存期間が有意に延長し、治療選択肢が増えてきたことから、多くの血液内科医の関心を集めるようになってきました。高齢者に多い骨髄異形成症候群(MDS)なども、まだまだ不十分ですが、新薬が少しずつ使えるようになってきています。大学病院という性格上、新しい治療法開発のための治験にも積極的に取り組んでいます。

若手の血液内科医の不足という全国的な悩みに自治医大血液科も苦勞しているところですが、診療体制が破綻しないように努めていきたいと考えております。御支援を宜しくお願い申し上げます。



「急性前骨髄球性白血病の骨髄像。このタイプの急性白血病は、DICを伴い、脳出血のリスクもあることから、緊急の治療が必要です。」

### 小児外科

外科学講座小児外科学部門 教授 前田 貢作  
(とちぎ子ども医療センター副センター長)



自治医科大学小児外科は、自治医科大学とちぎ子ども医療センターを中核とした高度な小児外科医療を提供するとともに、栃木県をはじめとした北関東の地域中核病院との連携のもとに、北関東全体の小児外科医療を支えています。

高度の医療を提供することはもちろんですが、それだけでなく子どもに優しい医療を常に心がけて診療を行っております。患者さまおよびそのご家族がここに来てよかったと感じ、少しでも満足感を持って退院していただくことを念頭に、診療・教育・研究に取り組んでいます。

15歳以下の子どものほぼすべての領域にわたって外科的治療を行っていますが、その中心は腹部外科手術とソケイヘルニアなどの体表の手術になります。特に小児外科疾患の特徴として救急症例が多いため、24時間いつでも対応できる診療体制をとっています。

当科の特徴として、他施設ではあまり行われていない小児の呼吸器外科疾患を

多数取り扱っています。硬性気管支鏡検査にて診断し、先天性の肺疾患や気道疾患の外科治療を行っています。PICU(小児集中治療室)が子ども医療センターに完備されていますので、気管狭窄症手術など困難な手術を多数手がけ、良好な成績を得ています。

また、本院に併設されている総合周産期母子医療センターでは産科・新生児科との密接な連携のもとに新生児外科疾患への迅速な対応、適切な治療を心がけ、多くの救命例を得ております。また、近年増加してきている出生前診断例に対しても的確な対応を行なっています。

緊急時連絡先:

(時間内) 外科医局:0285-58-7371 (小児外科外来担当医)

とちぎ子ども医療センター:0285-44-2111 (小児外科外来)

(時間外) 救命救急センター:0285-44-2111 (小児外科当直医)



小児リハビリテーション部は、子ども医療センター1階北側において小児整形外科の吉川先生を部長とし、PT 2名、OT 3名、ST 2名の人員配置でリハビリを実施しております。患者割合は、外来が9割。入院が1割と圧倒的に外来患者が中心です。栃木県内に於いて子どもに対するリハビリテーションを提供している病院は少なく、県北では国際医療福祉大学病院リハビリテーションセンター、県央ではとちぎリハビリテーションセンター、県南では当院、安足地区ではあしかがの森足利病院と緑の屋根診療所の数か所のみです。身体障害者や高齢者にリハビリテーションサービスを提供する病院は数多くありますが、子どもに対するリハビリ実施施設の少なさは全国的な傾向と同様です。そのため、当院リハビリテーションセンターがカバーしている範囲は、栃木県南地区、茨城県西部が中心となっています。

対象疾患は、脳原性疾患、神経筋疾患、運動器疾患や発達障害（自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害など）、言語障害（言語発達遅滞、構音障害、吃音など）が対象となり、それぞれに必要な療法を提供しています。現在、療法士一人の担当患者数が多く一人の患者に対するリハビリ実施回数は、二週間から月に一回程度と非常に少ない状態です。

院内における連携では、二分脊椎カンファレンス、小児整形外科リハビリカンファレンス、口蓋裂カンファレンスへの参加。院外における連携は、医療機関のみならず、発達障害児の増加に伴い、児童デイサービス事業所、栃木県内の特別支援学校及び特別支援学級、茨城県立下妻特別支援学校、各市町と県南健康福祉センターで行われる発達相談事業との連携が増えています。子どもたちは、家庭で過ごす時間と同じくらい、保育園や幼稚園、学校での生活時間が長くなるため、園や学校の先生との連携は非常に重要になると考えています。



療法室風景

院内学級 ●● おおるり分教室 ●●のご案内

栃木県立岡本特別支援学校・おおるり分教室は子ども医療センターの4Fにあり、入院している小学生と中学生のための学校です。

病棟から登校してきて学習しますが、登校できない時には教員がベッドサイドまで出向いて授業を行うこともできます。学習はそれぞれの地元の学校の教科書を使って行います。地元校と連絡を取って学習進度を確認しながら進め、戻る時の不安をできるだけ少なくするように努めています。主要教科だけでなく図画工作、体育、音楽、技術家庭などの授業もあります



小学生は複式学級、中学生は学年別の学級です。授業は午前中に3時間、午後に2時間で、時間割は学年や曜日によって異なっています。時間数は少ないですが、少人数の授業なので、一人ひとりの病状や学習進度に合わせた授業を行っています。

おおるり分教室で学ぶためには転校の手続きが必要です。詳細は病棟にてご確認ください。

♪♪♪ 附属病院からのお知らせ ♪♪♪

❖ NST研修会のご案内 参加無料(申込み不要)

会場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂 (本館西側の茶色の建物)  
 対象 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士等の養成を目的とした研修  
 問合せ先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

演題	日程	講師
褥瘡の管理と栄養サポート	H24年12月4日(火) 18:00-19:00	(自治) 太田 信子 師長(皮膚・排泄ケア認定看護師) 村越 美穂 NST専従管理栄養士
第13回 下野栄養管理研究会 「周術期の栄養管理」 -消化器術後の早期経腸栄養	H25年 1月 8日(火) 17:45-19:00	東京都保険医療公社 大久保病院 外科部長 丸山 道生 医師

❖ 診療科名の変更について

旧 乳腺・総合外科 ⇒ 新 乳腺科

乳腺疾患につきましては「乳腺科」へ、外科的の甲状腺治療は「耳鼻咽喉科」へご紹介いただけますようお願いいたします。